

令和3年度とちぎ健康福祉協会事業計画

I 事業運営方針

令和3年度は、平成30年度から令和4年度までの5年間の計画であるとちぎ健康福祉協会基本計画（三期計画）の4年目に当たることから、同計画の仕上げに向けて、計画に掲げた事業の着実な推進に努める。

最大の事業である桜ふれあいの郷の建替整備については、令和3年2月1日に竣工し、4月から新しい施設でのサービス提供が始まる。新施設での利用者支援体制を早期に確立し、より一層の利用者サービスの充実を図っていく。

また、施設の建替整備が課題とされている障がい者支援センターふれあいについては、適地を確保し次第、整備を進めていく。

人材の確保及び職員の資質向上の面から課題となっていた給与制度の見直しやキャリアパス制度の導入については、令和2年度内に新たな人事管理制度を構築した。令和3年度から運用を開始し、同制度の定着に向けて取り組んでいく。

新型コロナウイルス感染症については、日本国内においても変異種が出現していることやワクチン等の普及の見通しが不透明であること等から長期化することが懸念されている。

社会福祉施設等の運営に当たっては、引き続き感染防止対策の徹底と感染者発生時の対応に万全を期すとともに、利用者や職員の検査やワクチン接種について、適切に対応していく。

とちぎ健康づくりセンターについては、引き続き換気や消毒などの感染防止対策を徹底しながら安全な利用環境の確保に努める。とちぎ生きがいづくりセンターについては、令和3年4月からのシルバー大学校の再開を見込み、オンライン授業の導入など感染状況に応じた対応を図っていく。県からの受託事業については、県等と調整を図りながら感染防止対策に留意して事業を実施していく。

II 重点事項

令和3年度は、次の事項について重点的に取り組む。

1 桜ふれあいの郷新施設における利用者支援体制の早期確立

新施設における支援体制を早期に確立し、建替整備計画において目指した安全安心で質の高い利用者サービスの提供を目指す。

また、令和2年度に設計が完了した既存施設の解体工事に着手する。

2 新たな人事管理制度の実効性のある運用

キャリアパス等級制度や給与制度等については、令和3年4月から運用していく。

人事考課制度や人材確保、育成制度についても令和3年度から実施していくこととし、具体的方策を講じながら取り組んでいく。

3 障がい者支援センターふれあい建替整備事業の推進

新たな敷地へ移転整備することとした障がい者支援センターふれあいについては、適地を確保し次第、整備を進めていく。

また、同一敷地にあるグループホームについても併せて移転整備を行っていく。

4 新型コロナウイルス感染症への対応

引き続き、体温測定や消毒等の日常的な感染防止対策を徹底するとともに、感染防護具等の感染症対策物品の確保、感染症対策研修の実施、利用者や職員への検査やワクチン接種への適切な対応、感染状況に応じたリモート会議の実施体制の整備及び活用を図る。

また、指定管理、委託事業においては、県等の対応方針に基づき迅速かつ臨機応変に対応するとともに、感染症対策を踏まえた事業実施体制を整備する。

III 事業運営

1 総務福祉部

(所管事業)

事業所名	施設種別・事業名称等		利用定員	備考
支援業務課 (栃木県立リハビリテーションセンター障害者自立訓練センター(駒生園))	障害者支援施設	施設入所支援 自立訓練(機能訓練) 自立訓練(生活訓練) 短期入所	30人 30人 10人 4人	実施主体は、地方独立行政法人栃木県立リハビリテーションセンター
わかくさ	母子生活支援施設		20世帯	
	福祉型障害児入所施設		15人	
桜ふれあいの郷 児童施設	障害者支援施設(併設)	施設入所支援 生活介護 短期入所	15人 15人 1人	
桜ふれあいの郷 生活支援施設	障害者支援施設	施設入所支援 生活介護 短期入所 日中一時支援	130人 135人 3人 15人	
桜ふれあいの郷 就労支援施設	障害者支援施設	施設入所支援 生活介護 就労継続支援B型 短期入所	40人 40人 40人 1人	
障がい者支援センターふれあい	共同生活援助		54人	8住居
	障害者就業・生活支援センター			雇用安定等事業(国) 生活支援等事業(県)
	職場適応援助者事業			高齢・障害・求職者雇用支援機構
	特定相談支援事業			障害者総合支援法(指定)
	一般相談支援事業			
	障害児相談支援事業			
清風園 生活支援施設	障害者支援施設	施設入所支援 生活介護 短期入所 日中一時支援	50人 53人 5人 5人	
清風園 就労支援施設	障害者支援施設	施設入所支援 生活介護 就労継続支援B型 短期入所 日中一時支援	50人 45人 20人 2人 2人	
宝木保育園	保育所		160人	

(1) 総務課

協会本部としての総合的企画調整機能及び経営管理体制の充実強化に努めるとともに、各施設等と連携し、協会の自主自立経営の確立を図るために必要な事業を推進する。

事業運営に当たり、次の事項について、重点的に実施することとする。

- 新たな人事管理制度の適切な運用及び制度の定着化
- 障がい者支援センターふれあい建替整備事業の推進
- 桜ふれあいの郷既存施設の解体工事の実施
- 新型コロナウイルス感染症に関する情報収集・発信や研修の実施など感染症対策の徹底
- とちぎ健康福祉協会基本計画（四期計画）の検討の着手

（主な事業）

① 質の高いサービスの提供

ア 安全で快適な利用環境の確保

- 障がい者支援センターふれあい移転整備の推進

- 桜ふれあいの郷既存施設の解体工事（I期）の実施

区分	時期	概算金額
I期工事（18棟）	令和3年度	約4.5億円
II期工事（24棟）	財源を確保次第	約3.4億円

イ 人材の確保及び職員の資質向上

- 新たな人事管理制度に基づく制度の適切な運用による職員の資質向上及びモチベーションの向上

- ・キャリアパス等級制度の定着
- ・新しい給与制度の適切な運用
- ・キャリアパスに応じた研修の実施
- ・評価制度の導入に伴う管理監督者に対する考課者研修の実施

- 新たな人事管理制度に基づく採用区分や雇用形態の見直し

- ・正規職員の職種別採用の実施
- ・特定正職員制度の創設等、雇用形態の見直し
- ・職務の分野、職種の選択制の導入

ウ 情報公開の推進

- 事業計画、事業報告書等の備置・閲覧と公表

- ホームページの更新

○機関紙「かたらい」の発行

② 自主自立経営の確立

ア 経営管理体制の強化

○中長期的な資金計画の時点修正の実施

○月次報告作成時の経営分析の実施

○新たな会計システムの円滑な運用

イ 健康経営の推進

○勤怠管理システムの活用等による労働時間の適正管理

○職員提案制度等の活用

(2) 支援業務課

栃木県立リハビリテーションセンター障害者自立訓練センター（駒生園）の利用者支援に
係る業務を受託し、次の項目を推進する。

（主な事業）

① 質の高いサービスの提供

ア 利用者本位のサービスの提供

○利用者の特性に配慮した説明や選択肢の提示

○意見箱の活用

イ 安全で快適な利用環境の確保

○苦情や相談受付担当者の設置

○インシデント・アクシデントの事例の検証及び活用

ウ 人材の確保及び職員の資質向上

○生活支援員、看護師、OT、PT等職種間の連携

(3) わかくさ

母子を共に入所させる施設の特性を生かし、親子関係の再構築と生活の安定が図られるよ
う、就労や日常生活及び児童養育に関する相談支援を行うとともに、退所後の相談やその他の
援助を行うことで社会的自立を促進する。

また、子どもの貧困対策の推進に努め、関係機関と連携し、児童の生育環境等の整備に取
り組む。

事業運営に当たり、本年度は次の事項について重点的に実施することとする。

○新型コロナウイルス感染症等の感染症予防対策の徹底による入所母子の安全な利用環境の確保

○台風等の自然災害に備えるための防災用物品の整備による利用者の安全確保
(主な事業)

① 質の高いサービスの提供

ア 利用者本位のサービスの提供

○日常的な声かけや面談等の機会を捉え、母親の悩みごとに早期に気付くことによる利用者世帯の子に対する虐待の未然防止、早期発見

○心理相談事業の実施

○母親常会、子ども常会の開催

イ 安全で快適な利用環境の確保

○新型コロナウイルス感染症等の感染症予防対策の徹底による入所母子の安全な利用環境の確保

○防災対策に係る備品の整備による災害時における利用者の安全確保

○福祉事務所、学校、保育園との連絡会議の開催

○学習教室の開催による学力の向上

○利用者の働き方に対応した補完保育の実施

○夜間宿直の実施

○防災・防犯訓練の実施

ウ 人材の確保及び職員の資質向上

○基幹的職員を中心としたOJTの活用と内部研修の実施

エ 情報公開の推進

○福祉サービス第三者評価受審結果の公表

② 自主自立経営の確立

ア 収入の確保と経費節減

○関係機関等へのパンフレット送付等による広報

○施設見学の積極的受入や来所困難者に対する現地に赴いての説明

③ 地域社会への貢献

ア 福祉人材・支援技術の活用

○養育講座等ひとり親世帯を対象とした講座の実施

イ 施設の特性をいかした地域貢献活動

○緊急一時利用の受入

○一時保護受託事業の実施

ウ ボランティアの育成と連携

○子どもたちとの交流を目的としたボランティアの受入

○学習支援に係るボランティアの受入

(4) 桜ふれあいの郷

利用者の権利擁護に努め、自己選択と自己決定が図られるよう、その意思及び人格を尊重するとともに、利用者個々の能力に応じた自立と社会活動への参加を促進するため、質の高い障害福祉サービスを提供する。

また、利用者の心身の状態や地域生活への意欲等を勘案しながら、グループホーム等地域生活への移行を進め、「障がい者支援センターふれあい」を地域で生活する障害児者及びその家族に対する支援の拠点とし、総合的な福祉サービス事業を推進する。

事業運営に当たり、本年度は次の事項について重点的に実施することとする。

○施設建替に伴う利用者の環境変化に対する十分な配慮及び早期適応に向けた支援

○新施設におけるより良いサービス提供体制の構築

(主な事業)

① 質の高いサービスの提供

ア 利用者本位のサービスの提供

○施設建替に伴う利用者の環境変化に対する十分な配慮及び早期適応に向けた支援

○新施設におけるより良いサービス提供体制の構築

○虐待防止委員会の専門部会（虐待防止推進部会）の開催

○職員倫理綱領の唱和

○モニタリング等による利用者の意思確認、個別支援計画への反映

○苦情解決第三者委員の各委員からの意見聴取

イ 安全で快適な利用環境の確保

○既存施設の解体工事（I期）の実施に対する利用者の安全確保

○居室の個室化、ユニット化を踏まえた新たな支援体制への円滑な移行

○重度化、高齢化した利用者の増加に対応した医療ケア・支援技術取得のための研修受講

○インシデント・アクシデント報告書の周知徹底・原因分析の実施

○新型コロナウイルス感染症対応に係る感染防護具や消毒液等の確保

○体温測定、手指消毒、対面支援時等の感染防護具着用等、基本的な感染予防対策の徹底

○陽性者発生を想定したゾーニング等のシミュレーションの実施

ウ 人材の確保及び職員の資質向上

○研修計画に基づくサービス管理責任者・相談支援専門員の養成

エ 情報公開の推進

○保護者等への支援状況の報告

○ホームページの更新、積極的な情報発信

○かじかさわ通信の発行

② 自主自立経営の確立

ア 健康経営の推進

○業務管理システムを活用した業務の効率化

イ 収入の確保と経費節減

○新施設及び新支援体制による利用者の積極的な受入

○職員提案制度等の活用

③ 地域社会への貢献

ア 福祉人材・支援技術の活用

○さくら市自立支援協議会による福祉の仕事説明会への参加

イ 施設の特性をいかした地域貢献活動

○いちごハートねっと事業への参加（おこまり相談事業、物品の貸出、シトラスリボンプロジェクト in とちぎへの賛同）

○さくら市との「福祉避難所の設置運営に関する協定」及び「福祉避難所への災害福祉支援員の派遣に関する協定」に基づく対応の準備（継続）

○栃木県災害福祉支援チーム（DWAT）への登録

ウ ボランティアの育成と連携

○「桜ふれあいの郷まつり」や「センターふれあい交流会」による地域住民とのふれあいの実施

○「桜ふれあいの郷まつり」におけるボランティアの受入

(5) 清風園

利用者の権利を擁護し、自己選択や自己決定の意思を尊重しながら、自立と社会参加を支援することにより、利用者の自己実現を図るなど、質の高い障害福祉サービスを提供する。

事業運営に当たり、本年度は次の事項について重点的に実施することとする。

- 介護用リフトや電動着衣ベッド等の活用をはじめとした「ノーリフティングケア」による利用者及び職員の身体的負担の軽減への継続した取り組み
- 新型コロナウイルス感染防止のための衛生管理の徹底及びコロナ禍でも可能な活動を取り入れた、利用者の日常生活の充実に向けた支援

(主な事業)

① 質の高いサービスの提供

ア 利用者本位のサービスの提供

- 権利擁護委員会の開催

- 職員倫理綱領及び職員行動規範の隨時見直し

- 虐待防止委員会の開催

- 利用者の意見を反映した個別支援計画書の作成

- 新型コロナウイルス感染防止のための衛生管理の徹底及びコロナ禍でも可能な活動を取り入れた、利用者の日常生活の充実に向けた支援

イ 安全で快適な利用環境の確保

- 介護用リフトや電動着衣ベッド等の活用をはじめとした「ノーリフティングケア」による利用者及び職員の身体的負担の軽減への継続した取り組み

- 利用者の高齢化、重度化、高次脳機能障害、発達障害に対応するための研修受講

- 自己評価の実施

- リスクマネジメント委員会の開催

- 感染症マニュアルの改定

ウ 人材の確保及び職員の資質の向上

- 職場内研修の充実

エ 情報公開の推進

- 定期的なホームページの更新

② 自主自立経営の確立

ア 健康経営の推進

- 職員提案制度等の活用

イ 収入の確保と経費節減

- 関係機関との連携による利用定員の確保

- 専門職を中心とした健康管理の実施

③ 地域社会への貢献

ア 福祉人材・支援技術の活用

○体験実習の受入

○さくら市自立支援協議会による福祉の仕事説明会への参加

イ 施設の特性をいかした地域貢献活動

○いちごハートねっと事業への参加（おこまり相談事業、施設機能の貸出、シトラスリボンプロジェクト in とちぎへの賛同）

○さくら市との「福祉避難所の設置運営に関する協定」及び「福祉避難所への災害福祉支援員の派遣に関する協定」に基づく対応の準備（継続）

○栃木県災害福祉支援チーム（D W A T）への登録

ウ ボランティアの育成と連携

○さくら市ユースボランティアの受入

（6）宝木保育園

宝木保育園の基本方針と保育所保育指針に基づき、子どもたちの最善の利益を考え、心身の健やかな成長を支援するための多様な保育サービスを提供していくほか、地域の子育て支援拠点として、相談窓口の設置、交流保育及びボランティア等の受入を継続して実施する。

事業運営に当たり、本年度は次の事項について重点的に実施することとする。

○新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策の徹底による安全な保育環境の確保

○台風等の自然災害に備えるための防災用物品の整備による利用者の安全確保

（主な事業）

① 質の高いサービスの提供

ア 利用者本位のサービスの提供

○保育理念・保育士倫理綱領の周知徹底

○自己評価の実施

○危機管理・安全対策検討班の設置

○アンケートの実施（年3回）及び意見箱の設置

イ 安全で快適な利用環境の確保

○新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策の徹底による安全な保育環境の確保

○台風等の自然災害に備えるための防災用物品の整備による利用者の安全確保

○延長保育の実施

○リトミック、体操、英語、サッカーの各種教室の実施（体操教室の対象年齢拡大）

○異年齢児間・世代間交流事業の実施

○一斉メールによる連絡、情報発信

○アナフィラキシー症状に関する職員研修の実施

○防災・防犯訓練の実施

ウ 人材の確保及び職員の資質の向上

○園内外研修の実施

エ 情報公開の推進

○保護者の体験保育の実施

○園だより、保健だより、食育だよりの発行

○ホームページを活用した保育活動の紹介

② 自主自立経営の確立

ア 収入の確保と経費節減

○待機児童解消に向けた受入

○一時保育及び休日保育の実施

③ 地域社会への貢献

ア 福祉人材・支援技術の活用

○男性保育士によるイクメン推進講座の実施

○職場体験学習の受入

イ 施設の特性をいかした地域貢献活動

○地域子育て支援拠点事業（子育てサロン宝木）の実施

○保育士有資格者再就職に向けた実習の受入

○栃木県災害福祉支援チーム（D W A T）への登録

○赤ちゃんの駅、子ども110番、イベント用機材の貸出し等の実施

ウ 行事等へのボランティアの受入

○地域、学生ボランティアの受入

○シルバーボランティアの受入

2 生きがい健康部

(所管事業)

事業所名	事業名称				備考			
健康づくり課	指定管理事業 生きがいづくり課 高齢者生きがいづくり支援事業	とちぎ健康の森 県南支所 県北支所	とちぎ健康づくりセンター		プール・トレーニング室利用、健康づくり講座他施設貸出			
生きがいづくり課			とちぎ生きがいづくりセンター	シルバー大学校	中央校 640人 (160人×2コース×2学年)			
					南校 240人 (120人×1コース×2学年)			
					北校 240人 (120人×1コース×2学年)			
生きがい就労課		ねんりんピックとちぎ開催事業		はつらつとちぎ21推進事業（委託事業）	スポーツ・文化交流大会、作品展			
		全国健康福祉祭（ねんりんピック）派遣事業			スポーツ・ふれあいスポーツ・文化交流大会、美術展			
		介護支援専門員実務研修受講試験事業		自主事業	指定実施機関			
		介護支援専門員研修事業			法定研修、指導者養成研修、指導者会議			
		賛助会員入会促進事業			法人会員			
		情報誌発行事業		補助事業	年間4回発行			
		シルバー人材センター事業に対する支援 高齢者活躍人材確保育成事業						

(1) 生きがいづくり課

指定管理事業であるシルバー大学校の運営及び高齢者生きがいづくり支援事業として、高齢者の自主的かつ積極的な生きがいづくりの支援、豊かで生きがいに満ちた高齢社会を形成するため、「とちぎはつらつプラン21（七期計画）」や「とちぎ健康21プラン（2期計画）」に沿った生きがいづくり事業を実施する。

また、とちぎ生きがいづくりセンター県南支所・県北支所の施設管理について、利用者が安全・安心かつ快適に利用できる施設として、敷地内緑地や施設・設備の適正な維持管理に努める。

令和2年2月から長期に渡り休校となっているシルバー大学校については、令和3年4月

からの再開を見込み、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に講じながら感染状況に応じた対応を図るなど、各事業の実施にあたっては、感染防止対策を徹底し、県等の対応方針に基づき迅速かつ臨機応変に対応した事業運営に努める。

(主な事業)

① 質の高いサービスの提供

○シルバー大学校の運営

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大状況に即応した学校運営

(オンライン授業の導入や複数教室でのライブ形式による少人数制授業の実施等)

- ・講堂特定天井落下防止対策工事に伴う代替教室等の準備及びカリキュラム調整

(工期：R 3. 11月～R 4. 7月)

- ・地域活動の実践に繋がる学習カリキュラムの充実

(地域活動実習、地域活動団体等とのマッチング実施、同窓会支部等の活動事例紹介等)

- ・授業料等コンビニ・スマホ収納サービスの実施

○ねんりんピックとちぎ2021の開催

- ・運営方法見直し（※）を踏まえた大会の円滑な実施

※見直しの内容：競技団体主体による運営等

開催期間：4月20日（火）～6月6日（日）

内 容：スポーツ・文化交流大会（19種目）、シルバー作品展（6部門）

○第33回全国健康福祉祭ぎふ大会への選手団派遣

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度開催延期となった岐阜県への派遣

会 期：10月30日（土）～11月2日（火）

派遣内容：スポーツ交流大会・ふれあいスポーツ交流大会・文化交流大会（23種目）

美術展（12点出展）

派遣人員：選手・役員 計170名（見込）

○介護支援専門員実務研修受講試験の実施

試験日：10月10日（日） 受験者数：700人（見込）

○介護支援専門員の各種法定研修の実施

- ・オンライン研修と従来の集合研修の同時開催等、受講生が受講形式を選択するハイブリッド形式による研修の円滑な実施

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和3年1月から導入済)

- ・厚生労働省「介護支援専門員研修等オンライン化等事業」の導入に向けた県・関係機関との連携強化

実施期間：5月～翌年3月 受講者数：1,120人(見込)

② 自主自立経営の確立

- シルバー大学校生の健康度調査等による入学者の確保
- 賛助会員向けサービスの強化等による会員増への取組強化

③ 地域社会への貢献

- シルバー大学校卒業生の健康づくり講座の実施やねんりんピック派遣選手の活用
- とちぎ健康の森フェス2021等へのボランティアの受入

(2) 健康づくり課

生活習慣の改善による生活習慣病の予防とその他県民の自主的な健康づくりを総合的に支援するため、「運動・栄養・休養」の視点から様々な健康づくり事業を行う。

特に、「とちぎ健康21プラン（2期計画）」や「健康長寿とちぎづくり推進条例」に基づき設置された「健康長寿とちぎづくり推進県民会議」の一員として、関係機関・団体との連携協働により事業を実施する。

また、県民誰もが安全・安心かつ快適に利用できる公の施設として、「とちぎ健康の森」の敷地内緑地の適正管理や施設・設備の維持管理に努めるとともに、とちぎ健康づくりセンター及びとちぎ生きがいづくりセンターの広報活動や施設の利用・貸出に係る個人情報の保護に配慮する。

なお、新型コロナウイルス感染症対策として取られた一定期間の休館や営業時間の短縮や、プールの大規模改修工事による利用者減少の回復に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、「おもてなしの心」をもって利用者へのサービス向上に努める。

(主な事業)

① 質の高いサービスの提供

- 利用者ニーズに応じた施設利用講習、健康づくり講座、集団指導、体力測定等の実施
- 地域や団体等に出向いた講座や研修会の実施
 - ・企業・団体等と連携した出張講座

- ・市町職員等の健康づくり活動を支援する研修会
 - ・県南・県北支所を活用した講座等の実施
- 利用者の状況や目的に応じた専門職種によるチーム体制の支援
- 健康づくりに関する相談や情報提供、普及啓発
- 調査研究及びノウハウをいかした新たな講座等の実施
- 定期設備点検及び保安警備、敷地内緑地管理等、とちぎ健康の森の施設・設備等の適正な維持管理の実施
- ・施設の大規模改修工事（県予算）に伴う県・関係機関との連絡調整及び対応
 - プール特定天井落下防止対策事業 （工期：R 2. 9月～R 3. 6月）
 - プール他県有施設省エネ加速化事業 （工期：R 2. 12月～R 3. 6月）
 - 講堂特定天井落下防止対策事業 （工期：R 3. 11月～R 4. 7月）
 - 全館自動検針・照明制御装置更新工事（工期：R 2. 12月～R 3. 6月）
- 災害・事故等の危機管理対策の徹底
- 公平な施設の貸出及び利用の確保
- サービス向上委員会等の開催
- 利用者ニーズや利便性を考慮した施設運営
- ・プリペイドカード特典の充実
 - ・企業等への利用チケット制の実施
 - ・コンビニ・スマホ収納サービスの実施
 - ・オリジナルグッズの有償頒布
- ② 自主自立経営の確立
- アンケート等による利用者ニーズの把握やニーズに沿った運動・栄養・休養の各種事業の展開による利用者の確保
- 継続利用に向けた仕組み（運動メニューの作成や集団指導）作りの実施
- 電力・ガスのデマンド監視による最大需要量の抑制、省資源・省エネルギーへの取組
- ③ 地域社会への貢献
- 電話や来訪による随時健康相談の実施
- 地域住民や学校等からのボランティアや職場体験の受入
- 県民への一部施設の無料開放（県民の日・家庭の日）

- 災害時に対応した自衛消防組織及び県や関係機関との連絡・協力体制の整備
- 施設が有する災害時対応機能の地域住民への周知
- 各施設・事業の連携によるとちぎ健康の森フェス2021の開催
- 主催イベント（とちぎ健康の森フェス2021）への運営ボランティアの受入や小学校・自治会等の参加呼びかけ

(3) 生きがい就労課

高齢者が長年培った豊かな経験と知識・技能を生かし、働くことを通して地域社会の活性化に貢献し、健康で生きがいをもった高齢期を送ることができるよう、高齢者の希望に応じた就業機会を確保し、安全で適正な就業を提供するための普及啓発、研修、相談・指導等を実施するなど、公益財団法人栃木県シルバー人材センター連合会の事務・事業を担っていく。

ア シルバー人材センター事業に対する支援

栃木県内のシルバー人材センター事業の普及啓発、運営の相談、指導及び助言を行うとともに、県内センターの会員確保及びシルバー事業の拡充を支援する。

イ 高齢者活躍人材確保育成事業

地域の高齢者や企業に対する積極的な周知・広報、就業体験を通した高齢者、企業双方のシルバー人材センターに対する理解促進、及び必要な技能講習の実施により、新規会員及び活用企業の増加を図る。

IV 利用実績及び計画

1 総務福祉部

(単位：人)

わかくさ	令和元年度実績			令和2年度見込			令和3年度計画		
	年間延利用者数	月平均利用者数	稼働率	年間延利用者数	月平均利用者数	稼働率	年間延利用者数	月平均利用者数	稼働率
世帯数（世帯）	215	17.9	89.6%	240	20.0	100.0%	240	20.0	100.0%
家族人員	591	49.2	—	647	53.9	—	648	54.0	—
母親	215	17.9	—	240	20.0	—	240	20.0	—
児童	376	31.3	—	407	33.9	—	408	34.0	—

桜ふれあいの郷	令和元年度実績			令和2年度見込			令和3年度計画			
	年間延利用者数	平均利用者数	稼働率	年間延利用者数	平均利用者数	稼働率	年間延利用者数	平均利用者数	稼働率	
児童	措置児童	3,692	10.0	91.7%	3,249	8.9	80.9%	4,745	13.0	100.0%
	契約児童	1,424	3.8	97.3%	1,457	3.9	99.8%	726	1.9	99.5%
	施設入所	5,463	14.9	99.5%	5,295	14.5	96.7%	5,448	14.9	99.5%
	生活介護	3,907	14.9	99.4%	3,901	14.9	99.6%	3,888	14.8	99.3%
生活	施設入所	45,104	123.2	91.3%	45,137	123.6	95.1%	45,932	125.8	96.8%
	生活介護	32,761	125.0	89.3%	32,573	124.8	92.4%	34,002	130.2	96.5%
就労	施設入所	14,002	38.2	95.6%	14,101	38.6	96.6%	14,454	39.6	99.0%
	生活介護	5,703	21.7	87.1%	5,691	21.8	87.2%	10,127	38.8	97.0%
	就労継続B	12,521	47.7	86.9%	12,650	48.4	88.1%	9,918	38.0	95.0%
共同生活援助		18,511	50.5	93.7%	18,991	52.0	96.4%	18,911	51.8	95.9%

桜ふれあいの郷	令和元年度実績			令和2年度見込			令和3年度計画			
	年間延利用者数	利用実人数	稼働率	年間延利用者数	利用実人数	稼働率	年間延利用者数	利用実人数	稼働率	
短期入所	児童	0	0	0.0%	0	0	0.0%	4	1	1.1%
	生活	157	8	10.7%	104	4	7.1%	110	5	10.0%
	就労	73	3	10.0%	2	2	0.3%	4	1	1.1%
	日中一時	2,088	18	53.1%	1,817	18	46.4%	1,378	13	35.2%

清風園	令和元年度実績			令和2年度見込			令和3年度計画			
	年間延利用者数	平均利用者数	稼働率	年間延利用者数	平均利用者数	稼働率	年間延利用者数	平均利用者数	稼働率	
生活	施設入所	17,688	48.3	96.7%	17,338	47.5	95.0%	17,885	49.0	98.0%
	生活介護	13,723	43.7	82.5%	13,437	43.0	80.7%	13,934	44.5	84.0%
	施設入所	17,089	46.6	93.6%	15,695	43.0	86.0%	17,520	48.0	96.0%
	生活介護	10,986	41.4	93.5%	10,453	39.8	88.7%	11,275	43.1	96.0%
就労	就労継続B	5,277	19.9	101.1%	5,220	19.9	99.6%	5,324	20.3	102.0%

清風園		令和元年度実績			令和2年度見込			令和3年度計画		
		年間延利用者数	利用実人数	稼働率	年間延利用者数	利用実人数	稼働率	年間延利用者数	利用実人数	稼働率
短期入所	生活就労	518 176	13 6	28.3% 24.0%	365 49	14 11	20.0% 6.7%	292 80	14 11	16.0% 11.0%
	日中一時就労	160 5	3 1	8.7% 0.7%	157 7	6 2	8.6% 1.0%	132 1	6 1	7.2% 0.1%

宝木保育園		令和元年度実績			令和2年度見込			令和3年度計画		
		年間延利用者数	月平均利用者数	稼働率	年間延利用者数	月平均利用者数	稼働率	年間延利用者数	月平均利用者数	稼働率
乳児	0歳児	184	15.3	—	195	16.2	—	200	16.6	—
	1歳児	360	30.0	—	355	29.5	—	360	30.0	—
	2歳児	360	30.0	—	360	30.0	—	360	30.0	—
幼児	3歳児	360	30.0	—	360	30.0	—	360	30.0	—
	4歳児	384	32.0	—	372	31.0	—	360	30.0	—
	5歳児	384	32.0	—	384	32.0	—	372	31.0	—
合計		2,032	169.3	105.8%	2,026	168.8	105.5%	2,012	167.6	104.8%

2 生きがい健康部

			令和元年度実績	令和2年度見込	令和3年度計画
とちぎ健康づくりセンター					
施設利用講習年間利用者数（人）			1,824	645	3,000
プール・トレーニング室年間利用者数（人）			73,484	22,244	55,331
会議室等年間利用時間（時間）			9,088	5,694	8,444
とちぎ生きがいづくりセンター					
講堂等年間利用時間（時間）			8,229	—	—
県南支所 教室等年間利用時間（時間）			964	—	—
県北支所 教室等年間利用時間（時間）			1,379	—	—
シルバー大学校学生数（中央校、人）			532	509	602
シルバー大学校学生数（南校、人）			228	219	243
シルバー大学校学生数（北校、人）			196	187	209
高齢者生きがいづくり支援事業					
ねんりんピックとちぎ参加人数（人）			2,359	中止	3,000
全国健康福祉祭派遣実績（派遣場所、人数）			和歌山県・143	翌年度に延期	岐阜県・170
介護支援専門員実務研修受講試験申込者数（人）			632	688	700
介護支援専門員研修事業延受講者数（人）			1,017	1,027	1,120